

(品目別需給編)

1 小麦

(1)国際的な小麦需給の概要（詳細は右表を参照）

<米国農務省（USDA）の見通し>

2018/19 年度

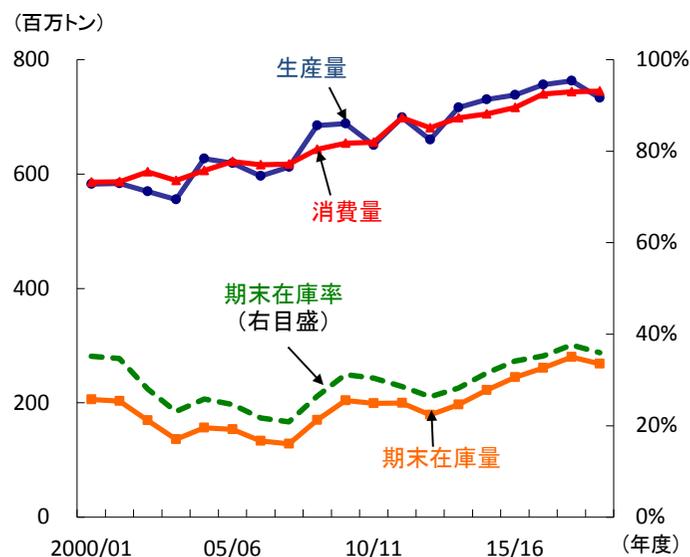
生産量 前年度比 ↓ 前月比 ↓

消費量 前年度比 ↑ 前月比 ↓

輸出量 前年度比 ↓ 前月比 ↓

- ・前月に比べ、豪州等で生産減による輸出余力の低下等から下方修正された。
- ・前年度に比べ、米国等で増加もロシア等で減少し、前年度を下回る見込み。

期末在庫量 前年度比 ↓ 前月比 ↑



注：USDA「PS&D」(2018.12.11)をもとに農林水産省で作成。

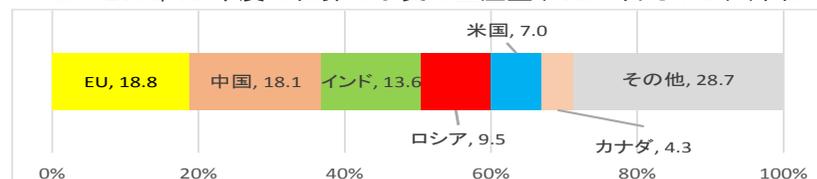
◎世界の小麦需給

(単位:百万トン)

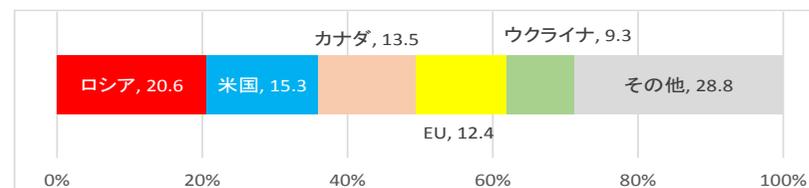
年 度	2016/17	2017/18 (見込み)	2018/19		
			予測値	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	756.5	763.1	733.4	▲ 0.1	▲ 3.9
消費量	739.9	744.2	745.3	▲ 0.5	0.1
うち飼料用	147.6	147.7	142.0	1.0	▲ 3.9
輸出量	183.4	181.2	177.4	▲ 1.4	▲ 2.1
輸入量	178.9	179.2	175.8	▲ 0.0	▲ 1.9
期末在庫量	261.0	279.9	268.1	1.4	▲ 4.2
期末在庫率	35.3%	37.6%	36.0%	0.2	▲ 1.6

資料：USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「Grain：World Markets and Trade」、「PS&D」(11 December 2018)

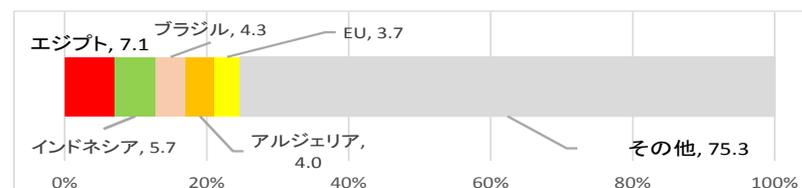
○ 2018/19 年度の世界の小麦の生産量 (733.4 百万トン) (単位：%)



○ 2018/19 年度の世界の小麦の輸出量 (177.4 百万トン)



○ 2018/19 年度の世界の小麦の輸入量 (175.8 百万トン)



(3) 国別の小麦の需給動向

< 米国 >

【生育・生産状況】米国農務省(USDA)によると、2018/19年度の生産量は前月から改訂はなく、冬小麦32.2百万トン、春小麦19.1百万トンの51.3百万トンの見込み。

2019/20年度の冬小麦は、休眠期に向かっているが、発芽はやや遅れ、11月25日時点で、発芽進捗率が86%と5年平均の92%を下回っている。

また、作柄は、良～やや良が55ポイントと前年度を5ポイント上回っている。

【需要動向】輸出量は、前月より0.7百万トン下方修正され、27.2百万トンの見込み。品種別には、硬質赤色冬小麦(HRW)が1.1百万トン下方修正されたものの、軟質赤色冬小麦(SRW)、硬質赤色春小麦(HRS)がそれぞれ0.3百万トン、0.1百万トン上方修正された。HRSの輸出量は、従来の市場である南米への輸出が減少しているが、東南アジアから需要が拡大し増加した。2018/19年度の上半期の輸出量は年間の推定輸出量(27.2百万トン)の41%に過ぎず、これは10年平均(52%)を下回る輸出ペース。

< カナダ >

【生育・生産状況】カナダ農務農産食品省(AAFC)によると、生産量は、前月に比べデュラム小麦が僅かに上方修正され5.8百万トン、デュラムを除く小麦が0.7百万トン上方修正され26.0百万トンとなることから、計31.8百万トンの見込み。

【需要動向】USDAによると、10月の降雪と低温で品質が低下したことにより飼料用グレードが増加し、飼料用の小麦消費量が前月より0.3百万トン上方修正された。

【貿易情報・その他】AAFC12月報告によると、輸出量は、前月に比べデュラム小麦が0.1百万トン下方修正、デュラムを除く小麦が0.5百万トン上方修正され、全体で22.7百万トンの見込み。デュラム小麦は、前年度に比べ4%減少するものの、デュラムを除く小麦は、豪州、ロシア、ウクライナ、EUに対して価格競争力があるため需要が増加し、前年度に比べ5.8%の増加。

小麦－米国 (冬小麦が全体の7割、春小麦は3割)

(単位:百万トン)

年 度	2016/17	2017/18 (見込み)	2018/19		
			予測値	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	62.8	47.4	51.3	-	8.3
消費量	31.9	29.3	31.3	-	6.6
うち飼料用	4.4	1.4	3.0	-	119.9
輸 出 量	28.6	24.5	27.2	▲ 0.7	11.0
輸 入 量	3.2	4.3	3.8	-	▲ 11.0
期末在庫量	32.1	29.9	26.5	0.7	▲ 11.3
期末在庫率	53.1%	55.5%	45.3%	1.7	▲ 10.2
(参考)					
収穫面積(百万ha)	17.75	15.19	16.03	-	5.5
単収(t/ha)	3.54	3.12	3.20	-	2.6

資料: USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「Grain: World Markets and Trade」、
「World Agricultural Production」(11 December 2018)

小麦－カナダ (春小麦を主に栽培)

(単位:百万トン)

年 度	2016/17	2017/18 (見込み)	2018/19		
			予測値、()はAAFC	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	32.1	30.0	31.8 (31.8)	0.3	6.1
消費量	10.8	9.2	9.3 (9.1)	0.3	1.5
うち飼料用	5.8	4.3	4.3 (4.7)	0.3	0.9
輸 出 量	20.2	22.0	24.0 (22.7)	-	9.3
輸 入 量	0.5	0.5	0.5 (0.1)	-	-
期末在庫量	6.9	6.2	5.1 (6.2)	-	▲ 17.0
期末在庫率	22.2%	19.9%	15.4% (19.5%)	▲ 0.1	▲ 4.5
(参考)					
収穫面積(百万ha)	8.98	8.98	9.90 (9.88)	0.10	10.2
単収(t/ha)	3.58	3.34	3.21 (3.22)	-	▲ 3.9

資料: USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「World Agricultural Production」(11 December 2018)
AAFC 「Outlook For Principal Field Crops」(20 December 2018)

< 豪州 >

【生育・生産状況】USDAによると、前月に比べ、単収は0.08トン/ヘクタール上方修正されたものの、収穫面積が0.8百万ヘクタール下方修正され、10.0百万ヘクタールとなる。このため、生産量は前月に比べ0.5百万トン下方修正され、2007/08年度以来最低となる17.0百万トンとなる見込み。

2018/19年度は、5月に開始された播種作業の時期から降水量は平均をかなり下回った。このため、冬作物の主要産地の一部で引き続き乾燥と土壌水分不足の影響で、単収が5年平均を17%下回る見込み。なお、収穫は12月の下旬に終了する見込み。

【貿易情報・その他】USDAによれば、輸出量は前月に比べ1.0百万トン下方修正され、2年連続して干ばつとなった2007/08年度以来の低水準となる10.5百万トンの見込み。豪州産小麦は、引き続き輸出価格に競争力がなく、国内の飼料用に仕向けられる見込み。

< EU >

【生育・生産状況】2018/19年度は、米国農務省(USDA)によると、生産量は前月からの改訂はなく137.6百万トンの見込み。

2019/20年度は、欧州委員会によると、普通小麦が11月末現在、ドイツで播種期、出芽期を迎えているが、水分不足等から生育状況は良くない。一方、フランス、ポーランドでは播種及び出芽が順調に進み、成長が例年より早い。但し、冬を迎える前の早い成長はかえって霜による影響を受け易くなる。また、デュラム小麦は、スペイン、イタリアで例年と同様に11月上旬から播種が開始された。

【貿易情報・その他】USDAによれば、輸出量は前月より1.0百万トン下方修正され2011/12年度以来最低の22.0百万トンとなる見込み。EUの輸出ペースは例年に比べかなり遅いが、その要因のひとつはドイツやルーマニア等で干ばつにより被害を受けた牧草の代替として小麦が用いられていることである。

小麦－豪州 (冬小麦を主に栽培)

(単位:百万トン)

年 度	2016/17	2017/18 (見込み)	2018/19		
			予測値、()はIGC	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	31.8	21.3	17.0 (16.6)	▲ 0.5	▲ 20.2
消費量	7.5	7.5	9.0 (8.3)	0.5	20.3
うち飼料用	4.0	4.0	5.5 (4.9)	0.5	37.5
輸 出 量	22.6	14.0	10.5 (10.0)	▲ 1.0	▲ 25.0
輸 入 量	0.1	0.2	0.2 (0.2)	-	-
期末在庫量	5.7	5.7	3.4 (4.0)	-	▲ 41.2
期末在庫率	19.0%	26.5%	17.2% (21.9%)	0.4	▲ 9.4
(参考)					
収穫面積(百万ha)※	12.19	12.25	10.00 (11.02)	▲ 0.80	▲ 18.4
単収(t/ha)	2.61	1.74	1.70 (1.51)	0.08	▲ 2.3

資料: USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「World Agricultural Production」(11 December 2018)
IGC 「Grain Market Report」(22 November 2018)

小麦－EU (冬小麦を主に栽培)

(単位:百万トン)

年 度	2016/17	2017/18 (見込み)	2018/19		
			予測値、()はEU	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	145.4	151.3	137.6 (137.4)	-	▲ 9.0
消費量	128.0	130.4	125.0 (128.6)	-	▲ 4.1
うち飼料用	56.0	58.0	53.0 (55.0)	-	▲ 8.6
輸 出 量	27.4	23.3	22.0 (21.2)	▲ 1.0	▲ 5.5
輸 入 量	5.3	5.8	6.5 (6.0)	-	11.7
期末在庫量	10.7	14.1	11.2 (13.2)	1.0	▲ 20.5
期末在庫率	6.9%	9.2%	7.6% (8.8%)	0.7	▲ 1.6
(参考)					
収穫面積(百万ha)	27.23	26.08	25.55 (25.56)	-	▲ 2.0
単収(t/ha)	5.34	5.80	5.39 (5.4)	-	▲ 7.1

資料: USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
USDA 「PS&D」(11 December 2018)
EU 「Balance Sheets For Cereals and Oilseeds and Rice」(25 December 2018)

小麦—中国（冬小麦を主に栽培）

< 中国 >

【生育・生産状況】2018/19年度の生産量は、中国糧油情報センターによると、前月からの改訂はなく、冬小麦が124.6百万トン、春小麦が6.9百万トンの131.5百万トン(対前年度比2.1%減)の見込み。

2019/20年度は、冬小麦の播種が終了し生育が進んでいる。中国中央气象台によると、河北省、山東省の大部分で分げつ期、甘肅省中部等は越冬期、江蘇省、安徽省、四川省の大部分は出苗、第3新葉から分げつ期に入っている。

【貿易情報・その他】2018年1月から10月までの小麦輸入量は2.5百万トン(前年度同期比36%減)となった。主な輸入先はカナダ(45.3%)、豪州(19.2%)、米国(14.3%)で、中国国内では、食の西洋化を背景に高タンパク小麦粉の需要が多い。

< ロシア >

【生育・生産状況】USDAによると、2018/19年度の収穫量は前月からの改訂はなく、70.0百万トンの見込み。

ロシア農業省によれば、11月30日時点での収穫面積は26.4百万ヘクタール(収穫進捗率は99.2%)であり、2018/19年度の収穫量(品質調整後)は、12月14日の同省収穫速報によれば、70.0百万トンとなっている。

また、2019/20年度の秋播き穀物の状況は、同日時点で89%が良好となっている。

【貿易情報・その他】USDAによれば、輸出量は、前月に比べ1.5百万トン上方修正され36.5百万トンの見込み。ロシアの小麦輸出ペースは、冬季の凍結や荒天により船積みが停滞するとの予想にもかかわらず、高水準で推移すると見込まれる。報道によると、12月21日にロシア農業省と穀物業者との間で行われた会合においては、ロシア農業省が、小麦の輸出予測量を37.0百万に引き上げたが、穀物の輸出制限については言及しなかった模様。これを受け、ロシア産の国際価格は一時低下したが、市場では今後、上昇する可能性があると思われる。

(単位:百万トン)

年 度	2016/17	2017/18 (見込み)	2018/19		
			予測値、()はIGC	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	133.3	134.3	132.5 (134.7)	-	▲ 1.4
消費量	119.0	121.0	123.0 (126.8)	-	1.7
うち飼料用	17.0	17.5	18.0 (19.0)	-	2.9
輸 出 量	0.8	1.0	1.2 (1.1)	-	20.0
輸 入 量	4.4	4.0	4.0 (4.1)	-	-
期末在庫量	114.9	131.3	143.6 (128.7)	-	9.4
期末在庫率	96.0%	107.6%	115.6% (100.6%)	-	8.0
(参考)					
収穫面積(百万ha)	24.69	24.51	24.21 (24.88)	-	▲ 1.2
単収(t/ha)	5.40	5.47	5.47 (5.41)	-	-

資料: USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「World Agricultural Production」(11 December 2018)
IGC 「Grain Market Report」(22 November 2018)

小麦—ロシア（主産地の欧州部で冬小麦、シベリアで春小麦を栽培）

(単位:百万トン)

年 度	2016/17	2017/18 (見込み)	2018/19		
			予測値、()はIGC	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	72.5	85.0	70.0 (69.5)	-	▲ 17.6
消費量	40.0	43.0	40.5 (41.5)	-	▲ 5.8
うち飼料用	17.0	20.0	18.0 (18.0)	-	▲ 10.0
輸 出 量	27.8	41.4	36.5 (32.6)	1.5	▲ 11.9
輸 入 量	0.5	0.5	0.5 (0.3)	-	6.4
期末在庫量	10.8	11.9	5.4 (10.8)	▲ 0.5	▲ 54.8
期末在庫率	16.0%	14.1%	7.0% (14.5%)	▲ 0.8	▲ 7.1
(参考)					
収穫面積(百万ha)	27.00	27.34	26.00 (26.10)	-	▲ 4.9
単収(t/ha)	2.69	3.11	2.69 (2.66)	-	▲ 13.5

資料: USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「World Agricultural Production」(11 December 2018)
IGC 「Grain Market Report」(22 November 2018)

(参考) 豪州の小麦を中心とした冬穀物・油糧種子の収穫動向 (ABARES および州レポートより)

<全体> (12月4日 ABARES レポート)

- 冬穀物生産は前年度より 23%減の 29.3 百万トン。過去 20 年平均を 20%下回る水準。小麦生産は前年度を 20%下回る 1,696 万トン、大麦は同じく 18%下回る 731 万トン、菜種は同じく 39%下回る 224 万トン。ニューサウスウェールズ (NSW) 州を始めとする豪州東部の生育期の干ばつが減産の要因。唯一生育期の降雨に恵まれたウェスタンオーストラリア (WA) 州の冬穀物、油糧種子は増産となり、小麦については 965 万トンで前年度(795 万トン)より 21%増。
- 豪州全体で 9 月まで降雨が少なく、10 月には多くの地域で降雨が平年以上であったが、冬穀物・油糧種子の生育改善には遅すぎた。

<WA 州> (12月7日 WA 州穀物産業協会レポート、我が国がめん用小麦を輸入)

- WA 州の穀物の作柄は予想より良好。収穫は遅れているがクリスマスまでには 50%は完了する見通し。降雨が平年並みあるいはそれ以上あった地域の穀物の品質、蛋白のレベルは非常に良好。中国など向けに生産を行っている地域では、高単収の品種の導入により蛋白のレベルは低下している。
- 生産量は小麦が 969 万トン、大麦が 432 万トン、菜種が 161 万トンの見込み。小麦については、新しいめん用品種の作付が拡大。小麦生産で見ると WA 州の生産量は豪州全体の 57%

<その他州>

- NSW 州の小麦生産量は、生育期の降雨不足から前年度より 56%減の 198 万トン。1994/95 年以来の低水準。
- クイーンズランド (QLD) 州も同様に前年度より 37%減の 43 万トン、サウスオーストラリア (SA) 州も前年度より 30%減の 287 万トン。

(百万トン) 小麦主要生産州の生産量推移 (2016/17~2018/19年度)



2 とうもろこし

(1) 国際的な需給の概要 (詳細は右表を参照)

<米国農務省 (USDA) の見通し>

2018/19 年度

生産量 前年度比 ↑ 前月比 ↑

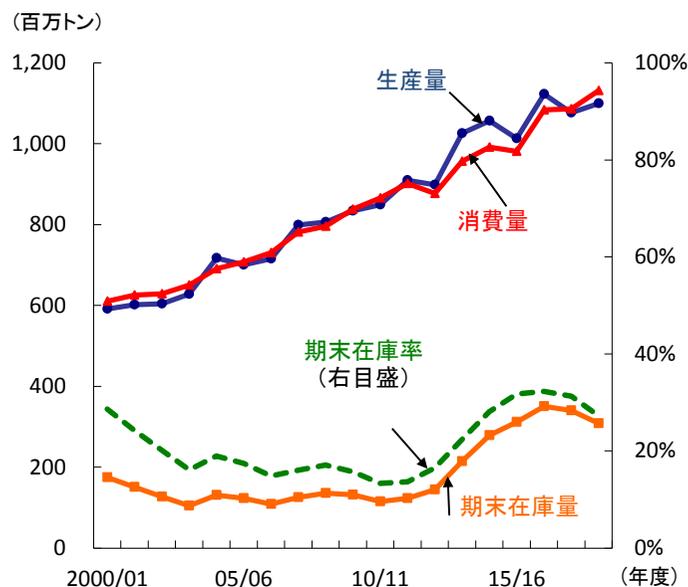
前月に比べ、ウクライナ、EUでの単収の上方修正等により上方修正された。

消費量 前年度比 ↑ 前月比 ↓

前月に比べ、米国のエタノール用需要の下方修正等により下方修正された。

輸出量 前年度比 ↑ 前月比 ↑

期末在庫量 前年度比 ↓ 前月比 ↑



資料：USDA「WASDE」(2018.12.11)をもとに農林水産省にて作成

(単位:百万トン)

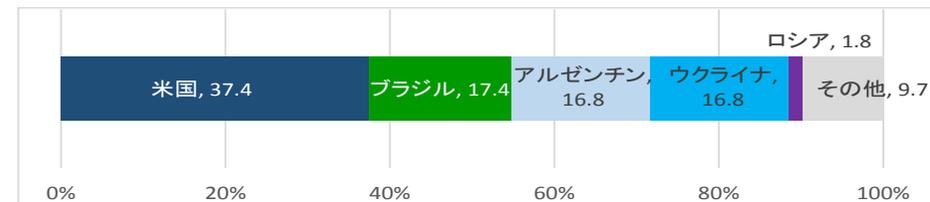
年 度	2016/17	2017/18 (見込み)	2018/19		
			予測値	前月予測から の変更	対前年度 増減率(%)
生産量	1,122.4	1,076.2	1,099.9	1.0	1.9
消費量	1,083.6	1,086.2	1,131.3	▲ 1.0	2.1
うち飼料用	656.0	670.1	698.7	2.1	2.6
輸出量	160.1	148.0	166.5	0.8	4.6
期末在庫量	350.2	340.2	308.8	1.3	▲ 18.3
期末在庫率	32.3%	31.3%	27.3%	0.1	▲ 4.0

資料：USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」(11 December 2018)

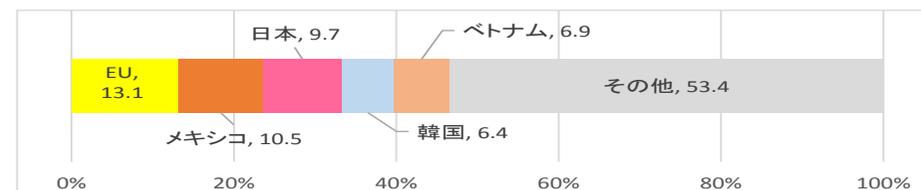
○ 2018/19 年度 世界のとうもろこしの生産量(1,099.9百万トン)(単位:%)



○ 2018/19 年度 世界のとうもろこしの輸出量(166.5百万トン)(単位:%)



○ 2018/19 年度 世界のとうもろこしの輸入量(159.7百万トン)(単位:%)



(2) 国別のとうもろこしの需給動向

< 米国 >

【生育・生産状況】生産量は、米国農務省（USDA）の12月レポートでは修正はなく、史上二番目の371.5百万トンの見込みは変わらず。収穫は11月に終了した。

【需要状況】先月と比べ、エタノール用需要の下方修正により、とうもろこしの消費量も下方修正された。

【貿易情報・その他】エタノール用需要及び輸入量の下方修正により、前月より期末在庫量が上方修正された。輸出量は前月と変わらず、史上最高の62.2百万トンの見込み。米国産とうもろこしは、ブラジル産、アルゼンチン産と比べ、輸出価格において競争力を持っており、USDAによると、地域別に見ると、東アジア向けの輸出が順調である。

とうもろこし－米国

(単位:百万トン)

年 度	2016/17	2017/18 (見込み)	2018/19		
			予測値	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	384.8	371.0	371.5	-	0.2
消費量	313.8	313.8	319.6	▲ 1.3	1.8
うち飼料用	138.9	134.6	139.7	-	3.8
エタノール用等	138.0	142.4	142.2	▲ 1.3	▲ 0.1
輸 出 量	58.3	61.9	62.2	-	0.5
輸 入 量	1.5	0.9	1.1	▲ 0.1	23.9
期末在庫量	58.3	54.4	45.3	1.2	▲ 16.8
期末在庫率	15.7%	14.5%	11.9%	0.3	▲ 2.6
(参考)					
収穫面積(百万ha)	35.11	33.47	33.09	-	▲ 1.1
単収(t/ha)	10.96	11.08	11.23	-	1.4

資料：USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「World Agricultural Production」(11 December 2018)

図：米国、ブラジル、アルゼンチンのとうもろこし輸出価格（FOB）の推移



資料：IGCのデータをもとに農林水産省にて作成

とうもろこし－アルゼンチン

(単位:百万トン)

年 度	2016/17	2017/18 (見込み)	2018/19		
			予測値、()はIGC	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	41.0	32.0	42.5 (48.3)	-	32.8
消費量	11.2	11.9	12.4 (20.1)	-	4.2
うち飼料用	7.5	8.0	8.5 (15.5)	-	6.3
輸 出 量	26.0	23.0	28.0 (29.0)	-	21.7
輸 入 量	0.0	0.0	0.0 (0.0)	-	-
期末在庫量	5.3	2.4	4.5 (5.8)	-	88.2
期末在庫率	14.2%	6.8%	11.1% (13.1%)	-	4.3
(参考)					
収穫面積(百万ha)	4.90	5.20	5.20 (6.45)	-	-
単収(t/ha)	8.37	6.15	8.17 (7.49)	-	32.8

資料：USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「World Agricultural Production」(11 December 2018)
IGC「Grain Market Report」(22 November 2018)

< ブラジル >

【生育・生産状況】2018/19年度については、夏とうもろこしの作付けが例年と比べ、早く開始された。主産地のパラナ州の生育状況は、96%が良いと評価されている。

また、大豆の作付けが前年度より早かったため、大豆の収穫後、単収の増加につながる早期の冬とうもろこしの作付けが可能となる見通し。

ブラジル食料供給公社（Conab）によると、2018/19年度とうもろこし（夏とうもろこし、冬とうもろこしの合計）の作付面積は、16.7百万ヘクタール（前年度比0.2%増）、生産量は、91.1百万トン（前年度比12.8%増）の見込みである。うち、夏とうもろこしは、27.4百万トン（前年度比2.1%増）、冬とうもろこしは、63.7百万トン（前年度比18.1%増）である。

【貿易情報・その他】2018年1月からの貿易統計によると、ブラジルのとうもろこしの輸出先は、イラン、スペイン、ベトナム等であり、中でもイランが最も多い。

< 中国 >

【生育・生産状況】中国国家统计局の12月14日公表の2018年産食糧の収穫量報告では、2億5,733万トン。前年度(2億5,907万トン)よりわずかに減産となる見通し。大豆等への作付転換による作付面積の減少が要因。

【需要状況】11月の新穀とうもろこしの収穫の遅れに伴う買付遅れや、生産コストの上昇から国内とうもろこし価格は全体的に上昇した。今後、新穀の買付けの進展により、継続的な価格の上昇の可能性は少ないとみられる。

【貿易情報・その他】11月22日、中国とカザフスタンは正式に「カザフスタンのとうもろこしの対中輸出に関する植物検疫要求議定書」を締結した。議定書の締結により、カザフスタンのとうもろこしを中国が輸入できるようになった。最新の中国税関統計によると、11月単月の輸入量は12万トンで前年同期の約4倍と大幅に増加した。

とうもろこし—ブラジル

(大豆収穫後に栽培する冬とうもろこしが7割を占め、夏とうもろこしは3割)

(単位:百万トン)

年 度	2016/17	2017/18 (見込み)	2018/19		
			予測値、()はIGC	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	98.5	82.0	94.5 (95.1)	-	15.2
消費量	60.5	64.5	66.5 (66.3)	-	3.1
うち飼料用	51.0	55.0	56.0 (53.0)	-	1.8
輸 出 量	31.6	23.5	29.0 (30.0)	-	23.4
輸 入 量	0.9	1.0	1.0 (0.5)	-	-
期末在庫量	14.0	9.0	9.0 (7.9)	▲ 1.5	-
期末在庫率	15.2%	10.3%	9.4% (8.2%)	▲ 0.0	▲ 0.8
(参考)					
収穫面積(百万ha)	17.60	16.60	17.50 (17.57)	-	5.4
単収(t/ha)	5.60	4.94	5.40 (5.41)	-	9.3

資料：USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「World Agricultural Production」(11 December 2018)
IGC「Grain Market Report」(22 November 2018)

とうもろこし—中国

(単位:百万トン)

年 度	2016/17	2017/18 (見込み)	2018/19		
			予測値、()はIGC	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	263.6	259.1	256.0 (219.9)	-	▲ 1.2
消費量	255.0	263.0	276.0 (247.6)	-	4.9
うち飼料用	185.0	187.0	194.0 (152.3)	-	3.7
輸 出 量	0.1	0.0	0.1 (0.1)	-	150.0
輸 入 量	2.5	3.5	5.0 (4.2)	-	44.1
期末在庫量	223.0	222.5	207.5 (165.1)	-	▲ 6.8
期末在庫率	87.4%	84.6%	75.2% (66.7%)	-	▲ 9.4
(参考)					
収穫面積(百万ha)	44.18	42.40	41.50 (35.70)	-	▲ 2.1
単収(t/ha)	5.97	6.11	6.17 (6.16)	-	1.0

資料：USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「World Agricultural Production」(11 December 2018)
IGC「Grain Market Report」(22 November 2018)

3 米

(1) 国際的な米需給の概要（詳細は右表を参照）

<米国農務省（USDA）の見通し>

2018/19 年度

生産量 前年度比 ↓ 前月比 ↑

・前月に比べ、タイや豪州で水不足等による下方修正も、ナイジェリアでの上方修正により下方修正された。

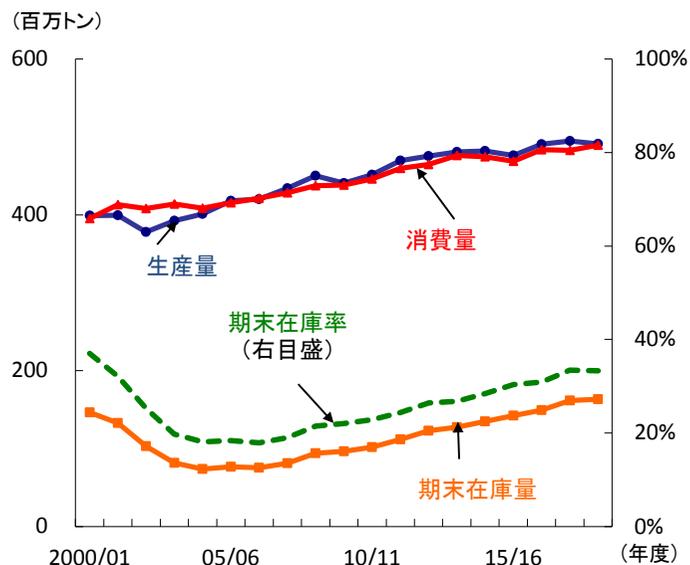
消費量 前年度比 ↑ 前月比 ↑

・前月に比べ、ナイジェリア等で消費量の上方修正により上方修正された。

輸出量 前年度比 ↓ 前月比 ↓

・前月に比べ、タイや豪州での減産に伴う輸出減から下方修正された。

期末在庫量 前年度比 ↑ 前月比 ↑



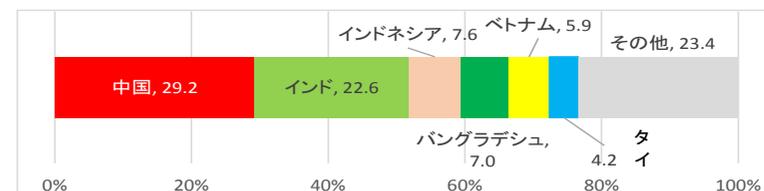
資料：USDA「PS&D」(2018.12.11)をもとに農林水産省にて作成

(単位:百万精米トン)

年 度	2016/17	2017/18 (見込み)	2018/19		
			予測値	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	490.8	495.1	491.1	0.4	▲ 0.8
消費量	483.8	482.8	489.6	1.2	1.4
輸出量	47.3	47.3	48.1	▲ 0.8	1.6
輸入量	41.3	47.4	45.3	▲ 1.1	▲ 4.5
期末在庫量	149.4	161.7	163.3	0.2	1.0
期末在庫率	30.9%	33.5%	33.3%	▲ 0.0	▲ 0.1

資料：USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「World Agricultural Production」(11 December 2018)

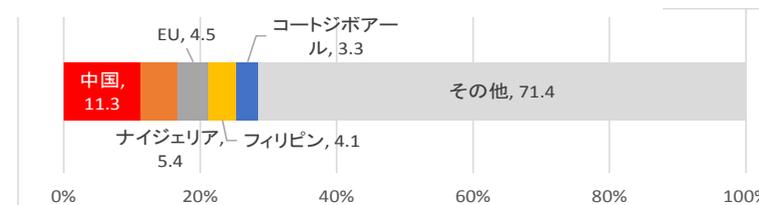
○ 2018/19 年度 世界の米の生産量(491.1 百万トン) (単位:%)



○ 2018/19 年度 世界の米の輸出量(48.1 百万トン)



○ 2018/19 年度 世界の米の輸入量(45.3 百万トン)



(2) 国別の米の需給動向

< 米国 >

主に中・短粒はカリフォルニア、長粒はミシシッピ沿いで栽培
カリフォルニア州の全米に占める生産シェアは約2割

【生育・生産動向】収穫は終了した。米国農務省（USDA）によれば、生産量は6.9百万トンで前月見通しと変わらず。前年度比では22.4%増となった。

【貿易情報・その他】豪州の減産による輸出減から、米国の中・短粒種の輸出量が増加するため上方修正された。これに伴い、期末在庫量が下方修正された。

12月の精米価格は、ミシシッピ川流域の長粒種(2等4%砕米混入、ガルフ積み)が11月と変わらず550ドル/トン。

一方、カリフォルニア産中粒種(1等4%砕米混入 精米工場渡し)は11月と比較し20ドル/トン下落し、800ドル/トン。

中国海関の12月28日付け公告によれば、燻蒸等の条件付きで米国産米の対中国輸出が承認された。

※ 豪州の米生産は、中・短粒種が中心。現在生育期を迎えている。産地の豪州東部NSW(ニューサウスウェールズ)州の干ばつにより灌漑用水が不足することから作付面積が大幅に減少。USDAによれば、2018/19年度の豪州の生産量は精米ベース(以下同じ)で11万トン(前年度45万トン)、輸出量が5万トン(前年度25万トン)と大幅に減少する見込み。

米－米国

(単位:百万精米トン)

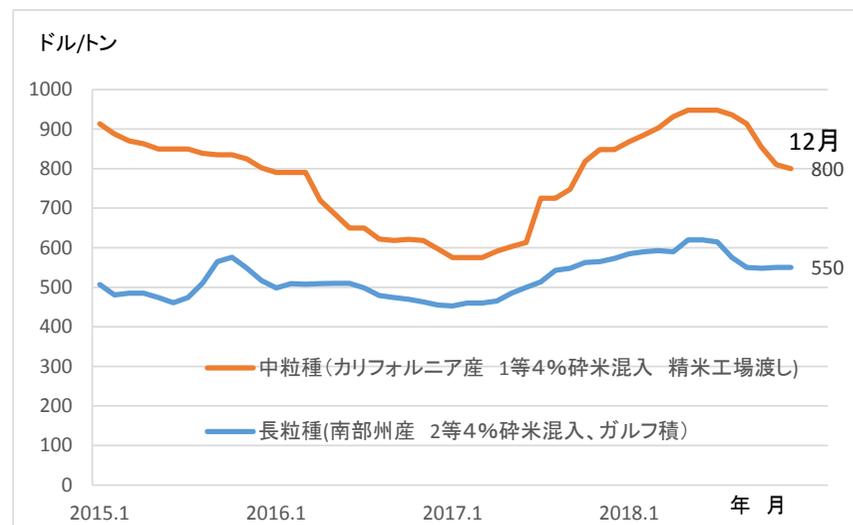
年 度	2016/17	2017/18 (見込み)	2018/19		
			予測値	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	7.1	5.7	6.9	-	22.4
消費量	4.2	4.3	4.2	-	▲1.4
輸出量	3.7	2.8	3.1	0.1	13.8
輸入量	0.8	0.9	0.9	0.02	7.1
期末在庫量	1.5	0.9	1.4	▲0.1	50.5
期末在庫率	18.5%	13.2%	19.0%	▲1.3	5.8

(参考)

収穫面積(百万ha)	1.25	0.96	1.17	-	21.9
単収(もみt/ha)	8.11	8.41	8.43	-	0.2

資料: USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「World Agricultural Production」(11 December 2018)

図 米国の長粒・中粒別の価格の推移



資料: USDA「Rice outlook(2018.11)」をもとに農林水産省にて作成

< タイ > **夏期の雨季作と冬期の乾季作で行われる。主にインディカを栽培**

【生育・生産動向】12月に入り、乾季作の作付けが進展。USDAは、乾季の灌漑用水の不足により、生産量を下方修正したが、史上最高の20.7百万トンの見込み。

【貿易情報・その他】USDAは、乾季米の生産量の減少から輸出量を下方修正した。

報道によれば、タイ米輸出業者協会は、2018年の米輸出量は1100万トンを達成できるとした。中国、香港、マレーシア、インドネシア、フィリピン向けの需要が強いことが要因。但し、懸念材料として、アフリカ諸国向けの米輸出については、中国との輸出競争が激化し、減少傾向にあることを挙げた。

< ベトナム > **北部で二期作、南部で二期作、三期作。主にインディカを栽培**

【生育・生産動向】2017/18年度の夏秋作は収穫完了。生産量は前年度より減少見込み。

秋冬作は、76万ヘクタール作付けされたが、11月半ばで収穫率は54%で、生産量は前年度より34万トン減の390万トンの見込み。

冬春作の作付けが開始。11月半ば現在の作付面積は前年同時期を上回っている

【貿易情報・その他】価格については、12月の国内卸売価格はジャスミン米の上昇を除き前月と変わらず。11月の輸出価格は、インディカ精米(破碎米5%混入)が上昇。

(10月:404→11月:406ドル/トン)、また、ジャポニカ精米(破碎米5%混入)も上昇。

(10月:525→11月:530ドル/トン)

1-10月の輸出数量は525万トンと前年同時期の507万トンを上回っている。中国向けは減少も、台風被害のあったフィリピン向けが増加。

エジプト商品公社GASCが11月中旬に行ったジャポニカ米の輸入入札にベトナム、中国、インドが応札した。(なお、ベトナムと中国の米が、条件となっているエジプト農業省による消費者の嗜好に合うかどうかを確認する調理試験をクリアしたが、最終的に価格差で中国産米が採択された。)

米-タイ

(単位:百万精米トン)

年 度	2016/17	2017/18 (見込み)	2018/19			
			予測値、()はIGC		前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	19.2	20.4	20.7	(21.3)	▲ 0.5	1.6
消費量	12.0	11.0	10.5	(10.4)	0.3	▲ 4.5
輸出量	11.6	10.7	10.3	(11.0)	▲ 0.7	▲ 3.7
輸入量	0.3	0.3	0.3	(0.3)	-	-
期末在庫量	4.2	3.2	3.3	(3.4)	0.1	4.7
期末在庫率	18.0%	14.6%	15.9%	(15.9%)	0.6	1.4
(参考)						
収穫面積(百万ha)	10.25	10.68	10.96	(0.01)	▲ 0.18	2.6
単収(もみt/ha)	2.84	2.89	2.86	(1.90)	▲ 0.02	▲ 1.0

資料: USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「World Agricultural Production」(11 December 2018)
IGC「Grain Market Report (22 November 2018)」(単収は精米t/ha)

米-ベトナム

(単位:百万精米トン)

年 度	2016/17	2017/18 (見込み)	2018/19			
			予測値、()はIGC		前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	27.4	28.5	29.1	(28.6)	-	2.1
消費量	22.0	22.0	22.2	(22.4)	0.1	0.9
輸出量	6.5	6.7	7.0	(6.9)	-	4.5
輸入量	0.5	0.4	0.4	(0.5)	-	-
期末在庫量	1.0	1.1	1.4	(2.1)	-	23.7
期末在庫率	3.4%	4.0%	4.8%	(7.2%)	▲ 0.0	0.9
(参考)						
収穫面積(百万ha)	7.71	7.69	7.76	(0.01)	-	0.9
単収(もみt/ha)	5.68	5.92	5.99	(3.70)	-	1.2

資料: USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「World Agricultural Production」(11 December 2018)
IGC「Grain Market Report (22 November 2018)」(単収は精米t/ha)

< インド >

インドでは、雨季をカリフ、乾季をラビと一般的に呼ぶ。北部はカリフ・ラビの二毛作、南部はカリフ・ラビの二期作。主にインディカを栽培

【生育・生産動向】

カリフ米の収穫はアッサム州等一部を除き終了した。カリフ米の作付面積は、前年度(39.4百万ヘクタール)より減少の38.4百万ヘクタール。

ラビ米の作付けは、カリフ米の収穫遅れや価格低迷から遅れている。

【貿易情報・その他】

バスマティ米(高級米)の輸出先は中近東が多く、非バスマティ米の輸出先はアフリカ諸国が多い傾向は変わっていない。

< 中国 >

北部で一期作、南部で二期作。ジャポニカ(粳)米は東北地区、江蘇省等で栽培、生産シェアは3割程度 次ページ(参考)も参照

【生育・生産動向】中国国家统计局の12月14日公表の2018年産食糧の収穫量報告で2億1,213万トン(粳ベース、精米(歩留まり70%)換算で1億4,849万トン)。前年度(2億1,267万トン)よりわずかに減産となる見通し。作付面積の減少が要因。

【貿易情報・その他】物資備蓄局等によると、生産農家の所得保障等のための2018年産中晩期インディカ米の買上げ数量は11月25日時点で2,062万トン(前年比60万トン増)、ジャポニカ米の買上げ数量は1,228万トン(前年比193万トン減)。

1-10月の輸入量は249.6万トンで前年同期比24%減。主要輸入先はベトナム(シェア52%)、タイ(30%)、パキスタン(10%)。一方、1-10月の輸出量は156.4万トンで前年同期比58%増。主要輸出先は、従来のコートジボアール(23%)、トルコ(9%)、韓国(8%)に加え、エジプト向け(8%)も増えている。中国海関の12月28日公告によれば、燻蒸などの条件付きで米国産米の輸入が承認された。

農業農村部の12月公表の「農産品供需形勢分析月報」(11月分)によれば、早期インディカ、晩期インディカ、ジャポニカ米の卸売価格(精米)は、それぞれキログラム当たり換算で3.76元、4.04元、4.00元で、新穀が市場に出回る影響を受け、前月及び前年同月と比較して下落している。特にジャポニカ米の下落幅が大きく、晩期インディカ米の価格を下回った。

米-インド

(単位:百万精米トン)

年 度	2016/17	2017/18 (見込み)	2018/19		
			予測値、()はIGC	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	109.7	112.9	111.0 (113.5)	-	▲ 1.7
消費量	95.8	98.7	100.0 (100.6)	-	1.4
輸 出 量	11.8	12.2	12.5 (12.8)	-	2.5
輸 入 量	0.0	0.0	0.0 (0.0)	-	-
期末在庫量	20.6	22.6	21.1 (22.8)	-	▲ 6.6
期末在庫率	19.1%	20.4%	18.8% (20.1%)	-	▲ 1.6

(参考)

収穫面積(百万ha)	43.99	43.79	44.00 (0.04)	-	0.5
単収(もみt/ha)	3.74	3.87	3.78 (2.62)	-	▲ 2.3

資料: USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「World Agricultural Production」(11 December 2018)
IGC 「Grain Market Report (22 November 2018)」 (単収は精米t/ha)

米-中国

(単位:百万精米トン)

年 度	2016/17	2017/18 (見込み)	2018/19		
			予測値、()はIGC	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	147.8	148.9	143.6 (141.8)	-	▲ 3.6
消費量	141.8	142.5	142.8 (146.0)	-	0.2
輸 出 量	0.8	1.4	1.8 (1.9)	-	29.5
輸 入 量	5.3	5.5	5.0 (5.0)	-	▲ 9.1
期末在庫量	98.5	109.0	113.0 (73.6)	-	3.7
期末在庫率	69.1%	75.8%	78.2% (49.8%)	-	2.4

(参考)

収穫面積(百万ha)	30.75	30.75	30.06 (0.03)	-	▲ 2.2
単収(もみt/ha)	6.87	6.92	6.82 (4.81)	-	▲ 1.4

資料: USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「World Agricultural Production」(11 December 2018)
IGC 「Grain Market Report (22 November 2018)」 (単収は精米t/ha)

(参考) 中国の中・短粒米(粳米:ジャポニカ)の需給・価格(主産地は黒龍江、吉林、遼寧、江蘇省。中国全体の生産量の3割程度)

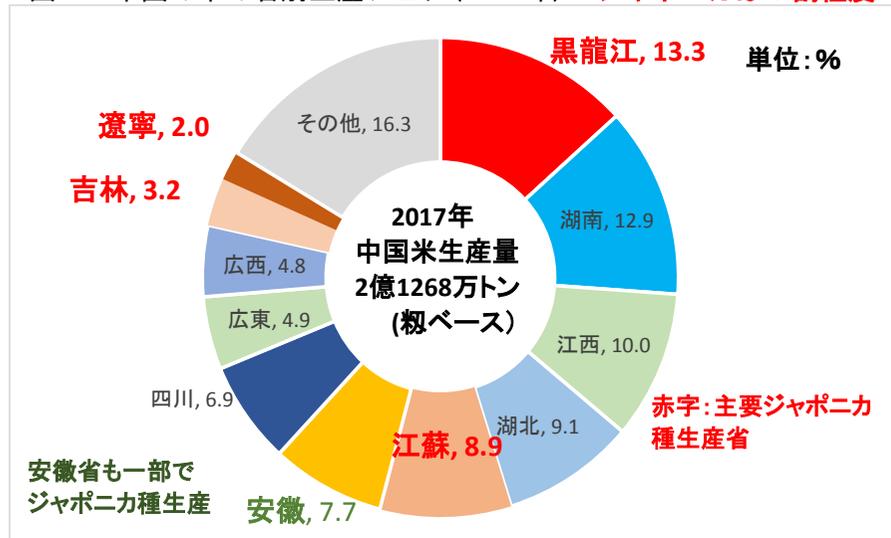
<需給> (図1参照)

- ・正式な統計はないが、ジャポニカの生産量は中国全体(2億1千万トン:粳ベース)の3割程度。世界一のジャポニカ生産国。主産地は東北地区(黒龍江、吉林、遼寧省)、上海とその郊外の江蘇省等。華南地域で二期作されるインディカ(籼米)と異なり、一期作。生育ステージは、東北地区で4月頃播種、5月下旬移植、9月頃成熟、10月頃収穫。2018/19年度の収穫はすでに終了。
- ・近年、長江流域の湖北省等では、従来のインディカからジャポニカに栽培を切り替える動きも見られる。
- ・北京や上海等の都市部を中心に東北地区のジャポニカの需要あり。日本食ブームもあり、消費量が伸びているといわれている。
- ・最近では韓国向け等に輸出。11月のエジプト向け中・短粒米入札を落札。一方、我が国等から輸入。米国産も輸入解禁となった。

<価格> (図2参照)

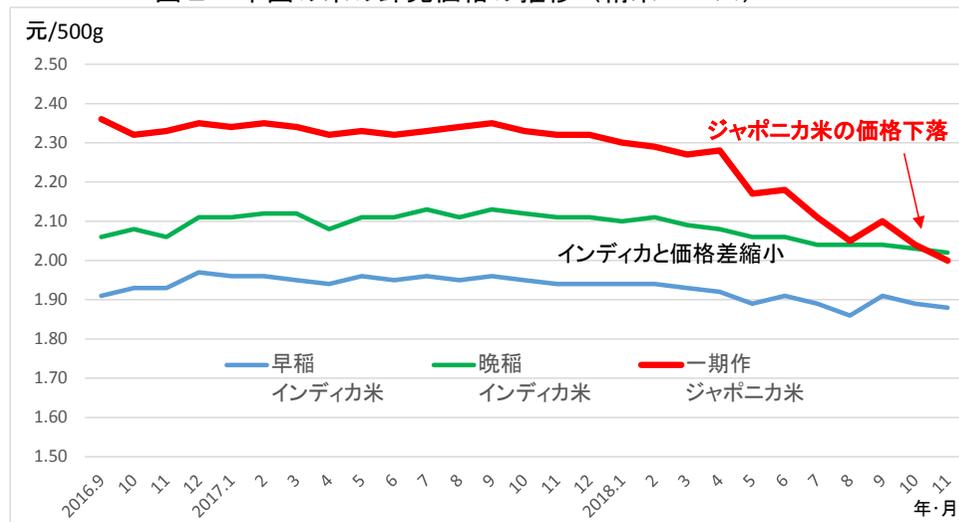
- ・ジャポニカの農家買付価格(もみ)は2018年11月現在1.41元/500グラム(キログラム当たり換算2.82元)、卸売価格(精米)は2018年11月現在、2.00元/500グラム(キログラム当たり換算4.00元)。(中国農業農村部「農産品供需形勢分析月報」による)
- ・農家買付価格、卸売価格ともジャポニカがインディカを上回っていたが、特に9月以降、新穀の市場への供給が潤沢のため、卸売価格では、価格差は縮小し、11月には逆転。

図1 中国の米の省別生産シェア(2017年) ジャポニカは3割程度



資料: 中国国家统计局資料をもとに農林水産省にて作成

図2 中国の米の卸売価格の推移(精米ベース)



資料: 中国農業農村部「農産品供需形勢分析月報」をもとに農林水産省にて作成

II 油糧種子

1 大豆

(1)国際的な需給の概要（詳細は右表を参照）

<米国農務省（USDA）の見通し>

2018/19 年度

生産量 前年度比 ↑ 前月比 ↑

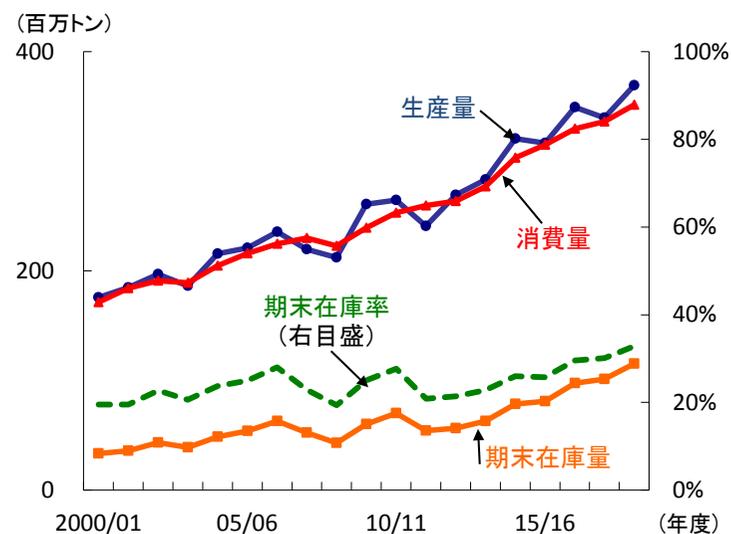
・前月に比べ、ブラジルで単収の上方修正のため、上方修正された。

消費量 前年度比 ↑ 前月比 ↓

輸出量 前年度比 ↑ 前月比 ↑

・前月に比べ、ブラジルの輸出量の増加により、上方修正された。

期末在庫量 前年度比 ↑ 前月比 ↑



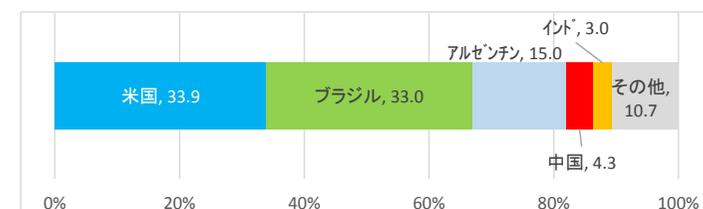
資料：USDA「PS&D」（2018.12.11）をもとに農林水産省で作成。

(単位:百万トン)

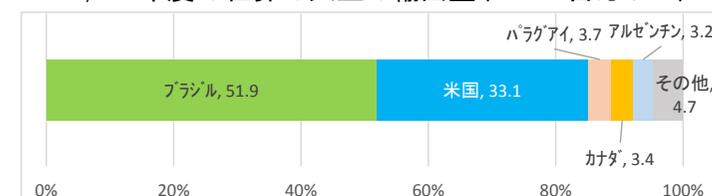
年 度	2016/17	2017/18 (見込み)	2018/19		
			予測値	前月予測からの 変更	対前年度 増減率(%)
生産量	349.3	339.5	369.2	▲ 1.7	8.8
消費量	329.7	336.1	351.5	▲ 0.4	4.6
うち搾油用	287.4	295.2	308.2	0.6	4.4
輸出量	147.5	153.2	156.1	0.7	1.9
期末在庫量	97.5	101.3	115.3	3.3	13.8
期末在庫率	29.6%	30.1%	32.8%	1.0	2.7

資料：USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」（11 December 2018）

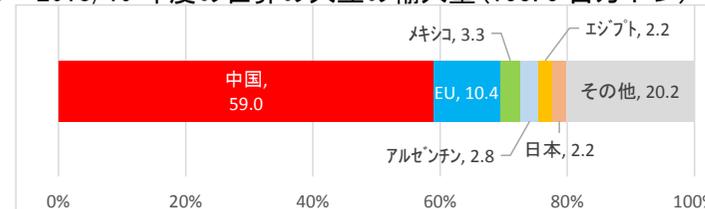
○ 2018/19 年度の世界の大豆の生産量 (369.2 百万トン) (単位：%)



○ 2018/19 年度の世界の大豆の輸出量 (156.1 百万トン)



○ 2018/19 年度の世界の大豆の輸入量 (153.5 百万トン)



(2) 国別の大豆の需給動向

大豆－米国

(単位:百万トン)

< 米国 >

【生育・生産状況】米国農務省（USDA）によると、平年より遅れて11月に収穫が終了した。生産量は、12月の需給報告では修正なく、125.2百万トンと史上最高の見込みである。

【貿易情報・その他】12月1日の米中首脳会談で、中国が米国産農産物の輸入再開について合意したと発表され、中旬には中国の国営企業の米国産大豆の輸入開始について報道された。なお、USDAによると、12月の需給報告では、米国の輸出量を含む需給において11月データを据え置いた。また、一時80ドル/トン以上開きのあった米国産大豆とブラジル産大豆のFOB価格の差は縮小している。(図3参照) 米国は、中国向け輸出が減少した代わりに、2017/18年度産は干ばつにより減産となったアルゼンチン等に向け輸出が増加している。

年 度	2016/17	2017/18 (見込み)	2018/19		
			予測値	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	116.9	120.0	125.2	-	4.3
消費量	55.7	59.0	60.1	-	1.9
うち搾油用	51.7	55.9	56.6	-	1.2
輸 出 量	59.0	58.0	51.7	-	▲ 10.8
輸 入 量	0.6	0.6	0.7	-	15.3
期末在庫量	8.2	11.9	26.0	-	118.1
期末在庫率	7.2%	10.2%	23.3%	0.0%	13.1

(参考)

収穫面積(百万ha)	33.47	36.23	35.75	-	▲ 1.3
単収(t/ha)	3.49	3.31	3.50	-	5.7

資料：USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「World Agricultural Production」(11 December 2018)

図：米国、ブラジル、アルゼンチンの大豆輸出価格（FOB）の推移



資料：IGCのデータをもとに農林水産省にて作成

< ブラジル >

【生育・生産状況】ブラジル国家食料供給公社(Conab)によると、10月に全国的に雨季に入ったため、作付けが例年より早く開始され、12月に入り多くの地域で生育期を迎えている。12月下旬には、例年より早く主産地のマットグロッソ州の一部では収穫が開催されるとみられる。同じく Conab によれば、生産量は天候に恵まれ、先月より上方修正され120.1百万トンで史上最高となる見込み。なお、一部産地で12月に入り降雨不足や大豆さび病の発生が報道されており、作柄への影響について注視が必要。

【需要動向】Conabによると国内消費量は、搾油用が43.2百万トン、食用その他が2.0百万トンと予測されており、消費量計は45.2百万トンで前年度(43.5百万トン)を上回り、史上最高となる見込み。

【貿易情報・その他】2018年の輸出量は、1～11月までの累計で、前年の一年分の合計68.2百万トンを上回る79.6百万トンに達している。輸出先は、中国が大多数(82%)を占めており、その他欧州、中近東諸国へも輸出されている。

大豆—ブラジル

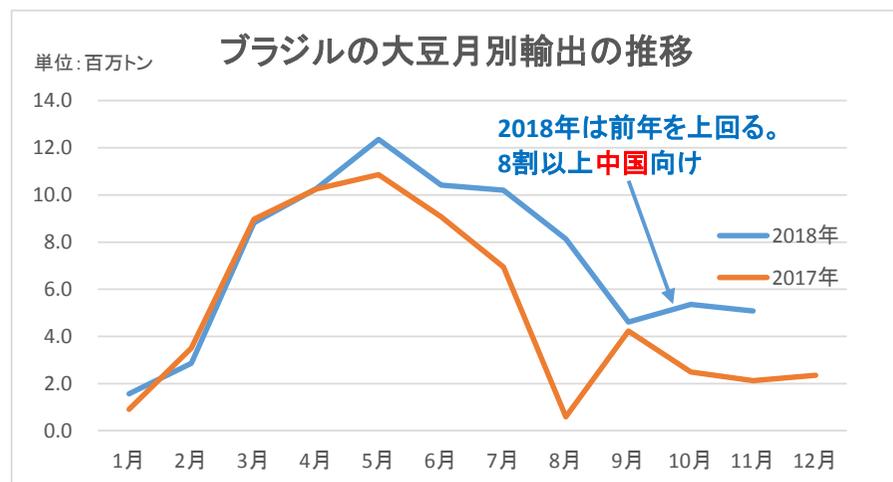
(単位:百万トン)

年 度	2016/17	2017/18 (見込み)	2018/19		
			予測値、()はOil.W	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	114.6	120.3	122.0 (123.0)	1.5	1.4
消費量	43.7	45.9	45.0 (…)	▲ 1.0	▲ 2.0
うち搾油用	40.4	44.5	42.7 (43.8)	-	▲ 4.0
輸 出 量	63.1	76.2	81.0 (76.0)	4.0	6.3
輸 入 量	0.3	0.2	0.2 (0.1)	-	11.1
期末在庫量	26.8	25.2	21.4 (1.7)	0.1	▲ 15.1
期末在庫率	25.1%	20.6%	16.9% (…)	▲ 0.3	▲ 3.6

(参考)

収穫面積(百万ha)	33.90	35.15	36.20 (36.50)	▲ 1.30	3.0
単収(t/ha)	3.38	3.42	3.37 (3.34)	0.16	▲ 1.5

資料: USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「Oilseeds: World Markets and Trade」、
「World Agricultural Production」(11 December 2018)
OIL WORLD「OIL WORLD Monthly」(14 December 2018)



ブラジルのクロープカレンダー (2018/19年度) (中部から南部)

2018/19年度	2018年												2019年												
	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1	2	3	4	5	6	7	8	9				
夏とうもろこし	リオグランデ・スル州等						作付 5.124 (百万ha)						収穫 27.37 (百万t)									→ 収穫夏冬計 91.10			
冬とうもろこし	作付面積夏冬計 16.67 ←												作付 11.55			収穫 63.73						↑			
大豆	マットグロッソ州、パラナ州等												作付 35.79			収穫 120.07									↑ 早熟種大豆収穫後冬とうもろこし播種

資料: CONAB 2018年12月

出典: ブラジル商工サービス省 (Ministério da Indústria, Comércio Exterior e Serviços)

< カナダ >

【生育・生産状況】12月のカナダ農務農産食品省(AAFC)による予測は、前月より単収が下方修正(2.96→2.86 トン/ヘクタール)され、生産量は前月より0.2百万トン下方修正され前年度より0.4百万トン減産となる7.3百万トンの見込み。州別生産量が2位のマニトバ州が、前年度の2.2百万トンから1.6百万トンに減少したのが、減産の要因である。なお、1位のオンタリオ州は4.2百万トン。

【貿易情報・その他】AAFCによると、生産減少により、輸出量は、前月より下方修正されたものの、米ドルに比べカナダドル安からカナダ産に輸出競争力があるため、5.5百万トンと史上最高となる見通し。

大豆－カナダ

(単位:百万トン)

年 度	2016/17	2017/18 (見込み)	2018/19		
			予測値、()はAAFC	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	6.6	7.7	7.3 (7.3)	▲ 0.2	▲ 5.4
消費量	2.5	2.9	2.6 (2.4)	-	▲ 10.2
うち搾油用	1.9	1.9	2.0 (…)	-	3.3
輸 出 量	4.6	4.9	5.3 (5.5)	▲ 0.2	7.6
輸 入 量	0.5	0.5	0.6 (0.4)	-	19.1
期末在庫量	0.3	0.6	0.6 (0.4)	-	▲ 7.1
期末在庫率	3.9%	8.1%	7.4% (5.1%)	0.2	▲ 0.6
(参考)					
収穫面積(百万ha)	2.23	2.94	2.55 (2.54)	-	▲ 13.3
単収(t/ha)	2.96	2.63	2.86 (2.86)	▲ 0.08	8.7

資料: USDA 「Oilseeds: World Markets and Trade」、
「World Agricultural Production」(11 December 2018)
AAFC 「Outlook for Principal Field Crops」(20 December 2018)

< アルゼンチン >

【生育・生産状況】ブエノスアイレス穀物取引所の12月20日付け週報によると、2018/19年度の大豆栽培面積は、17.9百万ヘクタールであり、前年度から約0.2万ヘクタール増加する見込みである。作付け進捗率は74%となっている。なお、11月の降雨過多被害を受けたため、サンタフェ、コルドバ州で再作付けを行う見通し。

【貿易情報・その他】2017/18年度は干ばつにより減産となったことから、国内需要を満たすため、輸出量が減少し、輸入量が増加している。10月以降、米国産の輸入が増加しており、USDAの11月の輸出検証高報告において、2018年9月から11月22日の間、アルゼンチンは、米国の最大の大豆の輸出先となったとしている。

大豆－アルゼンチン

(単位:百万トン)

年 度	2016/17	2017/18 (見込み)	2018/19		
			予測値、()はOil.W	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	55.0	37.8	55.5 (51.0)	-	46.8
消費量	47.8	41.7	47.9 (…)	-	15.0
うち搾油用	43.3	37.0	43.0 (39.0)	-	16.3
輸 出 量	7.0	2.1	5.0 (12.0)	▲ 3.0	137.0
輸 入 量	1.7	5.1	4.2 (4.8)	-	▲ 16.8
期末在庫量	35.5	34.5	41.3 (5.7)	3.3	19.6
期末在庫率	64.6%	78.8%	78.0% (…)	0.10	▲ 0.8
(参考)					
収穫面積(百万ha)	17.34	16.30	18.50 (17.30)	-	13.5
単収(t/ha)	3.17	2.32	3.00 (2.95)	-	29.3

資料: USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」
「World Agricultural Production」(11 December 2018)
OIL WORLD 「OIL WORLD Monthly」(14, December 2018)

< 中国 >

【生産・生育状況】12月14日付けの中国国家統計局の2018年の収穫量報告によれば、播種面積8.4百万ヘクタール、単収1.91トン/ヘクタールとなることから、生産量は16.0百万トンの見込み。

【貿易情報・その他】中国税関が12月8日に発表した11月分の通関統計では、輸入量は538万トン。1～11月の累計は8,231万トンで、前年同期(8,599万トン)を下回っている。また、農業農村部が12月に公表した「農産品供需形勢分析月報」(11月分)によると、1～10月の大豆輸入量7,696万トンのうち73.6%がブラジル産の輸入で、米国産の輸入は21.5%に過ぎない。

12月1日の米中首脳会談において、中国が米国産農産物の輸入再開について合意したと発表された。12月中旬にはサイノグレイン等の国営企業による米国産大豆の輸入について報道された。なお、USDAによると、中国の国営企業の国家備蓄向けの米国産大豆輸入については、追加関税は還付されることになっている。

大豆—中国

(単位:百万トン)

年 度	2016/17	2017/18 (見込み)	2018/19		
			予測値、()はOil.W	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	13.6	15.2	16.0 (14.2)	-	5.3
消費量	103.5	106.3	109.6 (…)	-	3.1
うち搾油用	88.0	90.0	92.5 (87.0)	-	2.8
輸 出 量	0.11	0.15	0.10 (…)	-	▲ 33.3
輸 入 量	93.5	94.1	90.0 (90.5)	-	▲ 4.4
期末在庫量	20.7	23.5	19.8 (…)	-	▲ 15.7
期末在庫率	19.9%	22.1%	18.1% (…)	-	▲ 4.0
(参考)					
収穫面積(百万ha)	7.60	8.25	8.83 (7.10)	-	7.0
単収(t/ha)	1.80	1.84	1.81 (2.00)	-	▲ 1.6

資料: USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「World Agricultural Production」(11 December 2018)
OIL WORLD 「OIL WORLD Monthly」(14 December 2018)

(参考)本レポートに使用されている各国の穀物年度について (2018/19年度)

	小麦	とうもろこし	米	大豆	なたね
米国	18年6月～19年5月	18年9月～19年8月	18年8月～19年7月	18年9月～19年8月	
カナダ	18年8月～19年7月			18年8月～19年7月	18年8月～19年7月
豪州	18年10月～19年9月				18年12月～19年11月
EU	18年7月～19年6月				
中国	18年7月～19年6月	18年10月～19年9月	18年7月～19年6月	18年10月～19年9月	
ロシア	18年7月～19年6月		19年1月～12月		
ブラジル		19年3月～20年2月		18年10月～19年9月	
アルゼンチン		19年3月～20年2月		18年10月～19年9月	
タイ			19年1月～12月		
インド			18年10月～19年9月		
ベトナム			19年1月～12月		

注 市場年度は、おおむね各国で作物が収穫される時期を期首として各国ごとに設定されているため、国、作物によって年度の開始月は異なります。

例えば、2018/19年度は、米国の小麦では2018年6月～2019年5月、ブラジルのとうもろこしでは2019年3月～2020年2月です。

なお、各国別、作物別の市場年度は、米国農務省によります。

<https://apps.fas.usda.gov/psdonline/app/index.html#/app/downloads?tabName=default>

【利用上の注意】

海外食料需給レポートは、在外公館からの情報、農林水産省が独自に各国の現地コンサルタント等を通じて入手した情報、公的機関（各国政府機関、FAO、IGC等）の公表資料、Oil World等民間の調査会社から購入した資料、その他、商社情報や新聞情報等から入手した情報を農林水産省の担当者において検証、整理、分析したものです。

- **海外食料需給レポートで使用している統計数値は、主に米国農務省が2018年12月下旬までに発表した情報を引用しています。**

さらに詳細なデータ等が必要な場合は、米国農務省のホームページを参照願います。

http://www.usda.gov/wps/portal/usda/usdahome?navid=AGENCY_REPORTS

主な参考資料

「World Agricultural Supply and Demand Estimates」

<http://www.usda.gov/oce/commodity/wasde/>

「Grain : World Markets and Trade」

<https://www.fas.usda.gov/data/grain-world-markets-and-trade>

「Oilseeds : World Markets and Trade」

<https://www.fas.usda.gov/data/oilseeds-world-markets-and-trade>

「World Agricultural Production」

<https://www.fas.usda.gov/data/world-agricultural-production>

「PS&D」

<https://apps.fas.usda.gov/psdonline/app/index.html#/app/advQuery>

など

- **データは予測値であり、毎月各種データの更新を受けて改訂されますので留意してください。**
- 資料原典で表示されるブッシェル及びエーカー等の単位は、それぞれトン及びヘクタールに換算して記載しています。
- 資料原典において現地通貨で表示される金額を円換算するにあたっては、日本銀行国際局・財務大臣公示の基準外国為替相場及び裁定外国為替相場等の換算レートを用いています。
- 市場年度は、おおむね各国で作物が収穫される時期を期首として各国ごとに設定されているため、国、作物によって年度の開始月は異なります。
なお、各国別、作物別の市場年度は、米国農務省によります。

<https://apps.fas.usda.gov/psdonline/app/index.html#/app/downloads>

(注：同サイトの「Reference Data」を参照)

- 期末在庫率の対前年度増減率の欄は、前年度とのポイント差。なお、表示単位以下の数値により計算しているため、表上では合わない場合があります。
- 本資料の引用等につきましては、出所（農林水産省発行「海外食料需給レポート」）を併記願います。
- 本文中の略称については以下の通りです。

FAO	国連食糧農業機関
IGC	国際穀物理事会
USDA	米国農務省
AAFC	カナダ農務農産食品省
ABARES	豪州農業資源経済科学局
CONAB	ブラジル食料供給公社
JAXA	宇宙航空研究開発機構
ASF	アフリカ豚コレラ

なお、生産見通し等の予測は、各国際機関及び各国の農業機関によりそれぞれの分析手法に基づき行われるため、機関によってデータの相違がある場合があります。また、各国の農業機関の公表を受けて、国際機関の見通しが改訂される場合があります。

- 本レポートの電子版は下記アドレスでご覧になれます。

農林水産省 海外食料需給レポート

http://www.maff.go.jp/j/zyukyu/jki/j_rep/index.html

- 本資料に関するご質問、ご意見等は、下記までお願いします。

連絡先 農林水産省大臣官房政策課食料安全保障室 TEL：03-3502-8111 (内線 3805)
--